

思いがけない時に

2020年5月31日

- (1) マタイ24:1~8 キリストの空中再臨のしるし

接続詞(トテ) —————→ **新たな時間や事態に入っても. . . .**

- (2) マタイ24:9~14 大患難期前半のしるし

- (3) マタイ24:15~28 大患難期後半のしるし

- (4) マタイ24:29~35 キリストの地上再臨のしるし

接続詞(ペリ・デ) —————→ **前の概念を踏襲しつつ、それとは別に. . .**

- (5) マタイ24:36~42 キリストの空中再臨のタイミング

- (6) マタイ24:43~51 キリストの空中再臨への備え

I. 空中再臨がいつか?

- (1) 主の定めた時
- (2) 突然
- (3) 大患難期以前

◇ノアの日と同じように実現する
平和だ、安全だ、日々の生活は何も問題なく、昨日も今日もあすもずっと
続いて行く。自覚も注意深さもない。予想外の惨事が不信者に襲いかかる。
ノアと彼の家族だけが、洪水で滅ぼされなかった

◇瞬間的分離：ひとりとは取られ、ひとりとは残される
残された者は突然のことを理解できず、恐怖と驚愕、混乱

II. 空中携挙への備え

- (1) 泥棒の侵入を警戒する家の主人 43~44節

- (2) 主人から管理を任されたしもべ
主人：イエス・キリスト

よいしもべ：任務に忠実
信者 主人から信頼されさらに多くを任される
主人がいつ帰っても慌てなくてよい(陰日向なく、誠実)

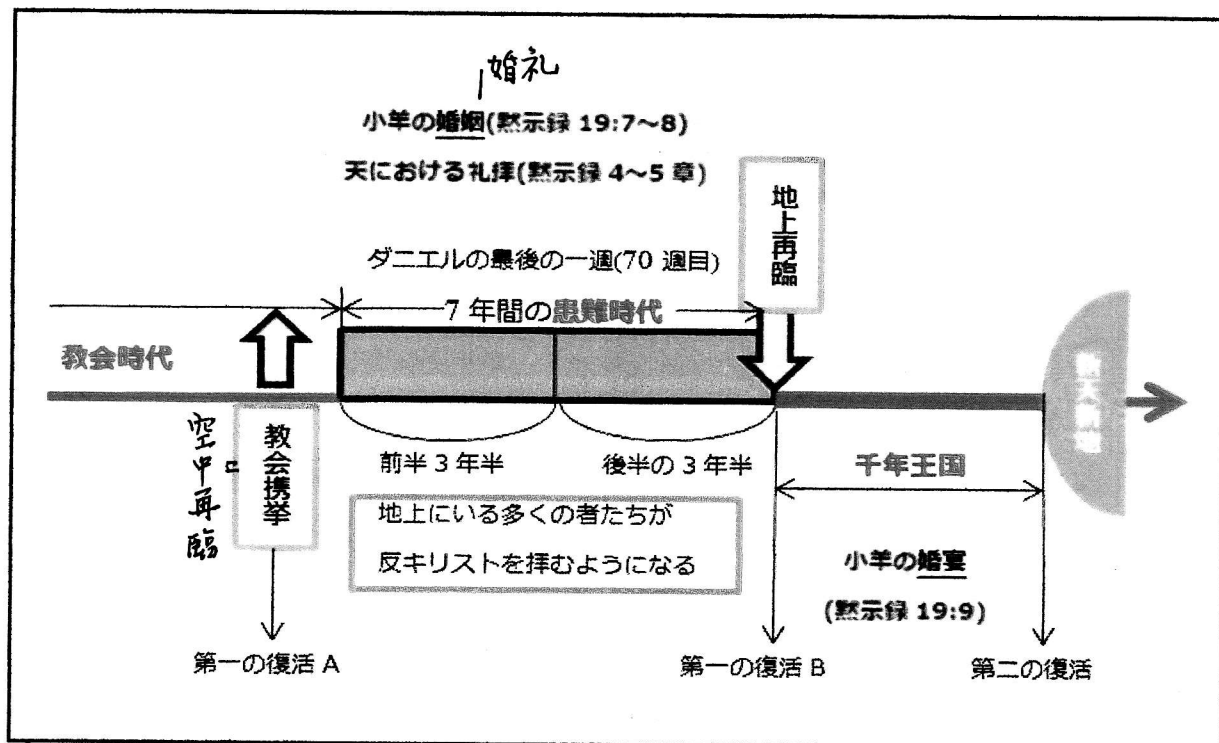
悪いしもべ：不注意、無頓着
不信者 権力を乱用してバワハラ
任務を怠って、それが常態化

救われているなら、携挙される

- (3) 主がいつ来られるかは知らないが、主がいつ来られるかはだれも知らないことを
知っている

- (4) いつ来てもおかしくない
今日でもあすでも
主が決めておられる時に必ず実現する

- (5) 目を覚ましていなさい
用心していなさい



Ⅱ. 空中再臨（携挙）と地上再臨の定義

	携 挙	再 臨
(1)	携挙の時、クリスチャンは、栄光のからだに変えられて空中で主と会う (第一テサロニケ 4 : 17)	再臨の時、旧約の信者とクリスチャンと大患難期の信者が、主とともに地上に戻って来る(ユダ14節、黙示19 : 14)
(2)	携挙のタイミングは、大患難期の前に起きる 〔黙示録 3 : 10〕 (第一テサロニケ 5 : 9)	再臨のタイミングは、大患難期の末に起きる (マタイ 24 : 29~35)
(3)	携挙は、突然であり一瞬のうちに起きる。正に思いがけない時である。 (第一コリント 15 : 52)	再臨は、地上で大患難期を生き延びた全ての国民に目撃される (ルカ 21 : 27)
(4)	携挙は、いつ起きてもおかしくないし、今起きてもおかしくない。 (マタイ 24 : 36~42)	再臨は、反キリストがイスラエルと平和条約を締結してから7年後に起きる (ダニエル 9 : 24~27)
(5)	大患難期には、一人もクリスチャンはいない。携挙は、大患難期からクリスチャンを救うことが目的であるこの救いを待ち望んでいる人々のために携挙がある。(ヘブル 9 : 28)	大患難期は、不信仰者を裁く創造主の怒りの時である。預言者エレミヤは、「ヤコブには苦難の時」と呼んでいるここにはユダヤ人と異邦人の不信仰者が対象となる。(エレミヤ 30 : 7)

大橋留蔵牧師「終末論研究 チャート」より引用.